

便益 (単位：億円)

走行時間短縮	0.1
走行経費減少	0.0
交通事故減少	0.0
歩行者快適性向上	4.0
合計(初年度便益)	4.1
便益総額の 現在価値	68.9

費用 (単位：億円)

事業費 (単純合計)	22.2
維持管理費 (単純合計)	0.4
投資総額の 現在価値	50.7

社会費用便益比B/C	1.36
------------	------



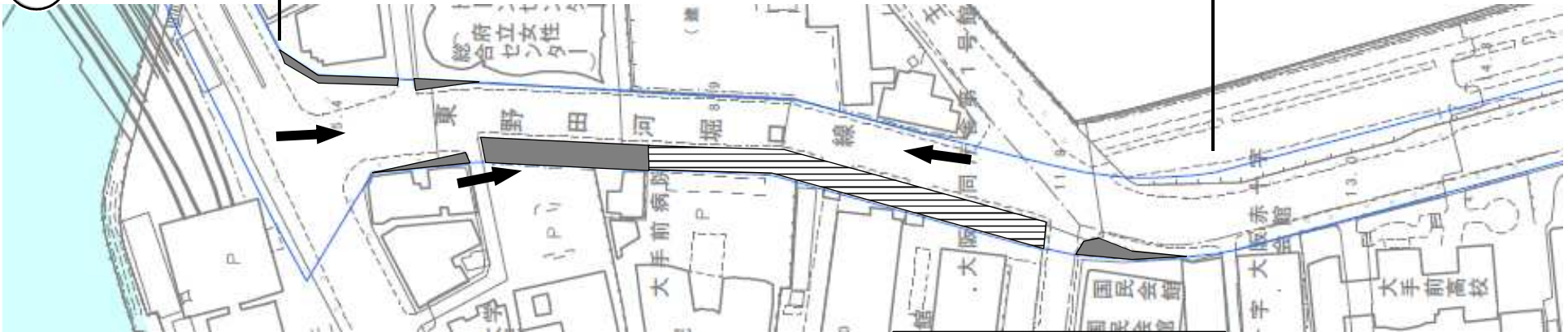
注) 便益額、費用額については単位(億円)下一桁を四捨五入しているため、合計値の端数が合致しない場合もある。

図 - 東野田河堀口線と競合路線

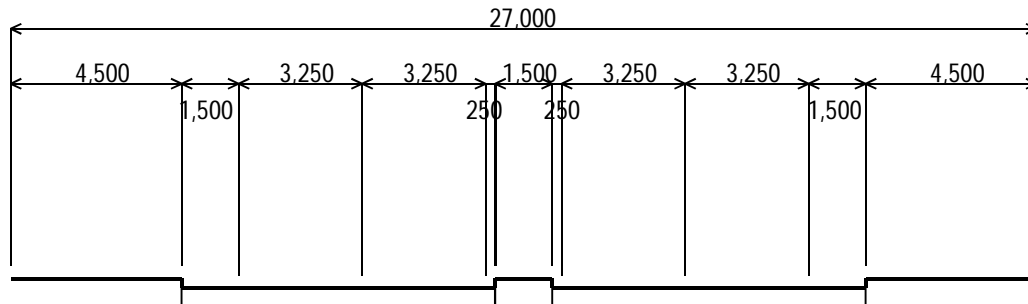




東野田河堀口線（大手前） 事業中箇所 L=280m W=27m



東野田河堀口線 標準断面図

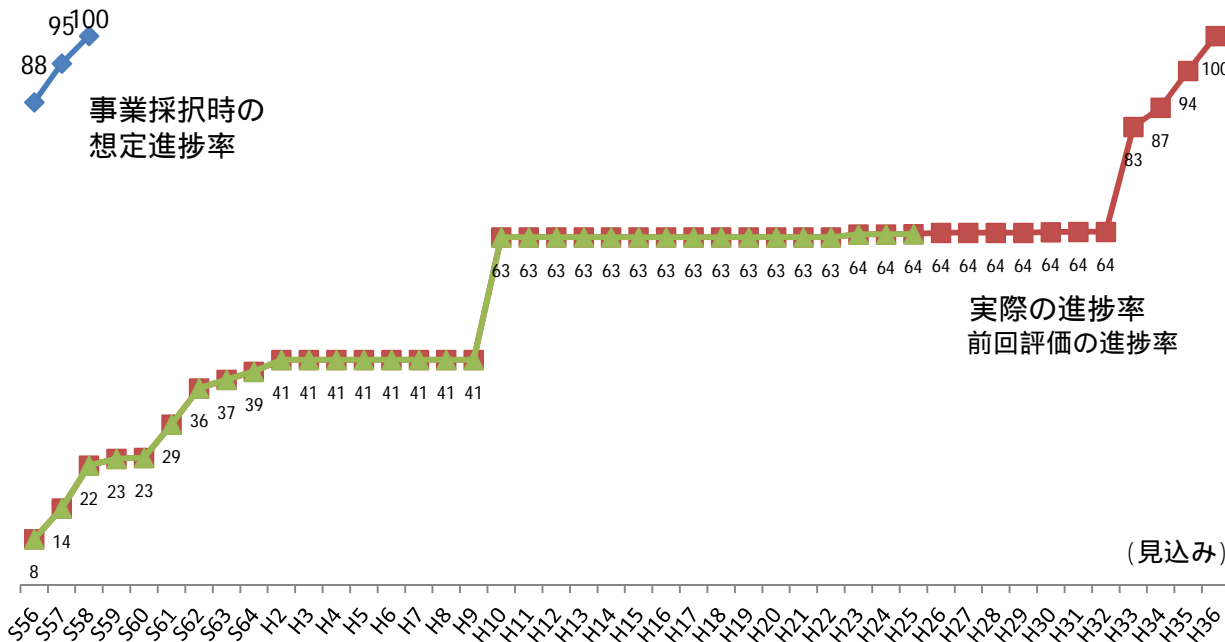


凡 例	
	用地取得済箇所
	整備済箇所
	残用地取得物件
	施工中箇所
	前回評価時(H25)からの進捗箇所

用地取得率：42%（面積ベース）  
工事進捗率：6%（面積ベース）

事業費ベース進捗率：64%

進捗率の推移(単位:%)



残事業の内容

- ・用地取得2件(1,232㎡)
- ・道路工事(延長260m、面積7,120㎡)
- ・残事業費約8億円

今後のスケジュール(見込み)

- ・平成36年度 事業完了予定

事業が遅延した原因とその状況

・財政状況の悪化により、年次計画どおりの予算確保が難しく、当初計画に比べ進捗が遅れていた。

対応と解消の目途及びその根拠

・本路線は、用地取得の難航により事業が長期化していたが、残る用地取得も国有地2件のみとなっている状況であり、用地取得、整備工事を行うことで事業が完了する。また、用地取得の目途も立っており、年次計画どおりの予算が確保出来ることで、完了予定年度での完成が見込める。